

平成27年度ふるさと納税寄附金額

46,736件 2,599,785,142円

(寄附金額・全国第7位※ふるさとチョイスより参照)

平成27年度は、ふるさと納税の財源を使って

977,396,385円

を市の事業に活用しました。

行政に依存しない事業展開や新たな特産品の開発、また市外から移住し平戸の魅力を発信しようとする人や、将来の子どもたちのために今の平戸の現状を変えていこうと真剣に考える人たちが増えています。このように、まちの人たちの意識も少しずつ変化してきています。

今回は、寄附金の活用の中で最も力をいれている「ずっと住みたいまち創出プロジェクト」において、起業や新たな事業展開などに取り組んでいる人々たち取材しました。そこから見える、まちの人たちの思いを紹介します。

平戸市の今

平成26年度、ふるさと納税の寄附金額で日本一になった平戸市。日本一になった事で、たくさんの方のメディアなどにも取り上げられ、平戸の知名度は格段に向上しました。また、平成27年度も税制改正やワンストップ特例制度などの影響により、全国から約26億円の寄附金が寄せられました。

これらの寄附金は、市で設定している「やらんば燦燦プロジェクト」に活用され、平成27年度は約9億7千万円を活用しました。市税に近い収入があったことで、これまで支援することができなかった事業にも活用でき、少しずつまちは活性化しています。

やらんば燦燦(さんさん)プロジェクト

ふるさと納税は、日本で唯一税金の使い道を指定できる制度です。寄附者から平戸市へ寄附されたふるさと納税は「やらんば!平戸」応援基金に積立てられ、平戸市総合計画で設定している「輝く人づくりプロジェクト」・「宝を磨き活かすプロジェクト」・「ずっと住みたいまち創出プロジェクト」の3つのプロジェクトに活用されます。寄附者が、応援したい!と思うプロジェクトに寄附したお金が活用されています。

まちの活性化だけでなく

ずっと住みたいまち創出プロジェクト活用事業

- 企業立地等の推進
- 消防・救急救命体制の充実・強化
- 地域ぐるみの子育て支援など



事業名	活用金額
中小企業振興対策事業	37,731,172円
消防防災施設整備事業	18,003,977円
平戸式もうかる農業実現支援事業	17,752,000円
移住定住環境整備事業	17,566,929円
創業支援対策事業	12,601,516円
路線バス維持対策事業	12,251,088円
福祉医療給付事業	7,237,876円
空き店舗等活用促進事業	7,045,000円
イカ類流通システム実証試験調査事業	4,800,000円
予防接種事業	3,191,760円
度島ふれあいモデル事業	3,024,000円
安心出産支援事業	2,149,960円
6次産業化推進事業	800,000円
子育て支援事業	773,700円
幼児健康診査事業	734,870円
児童福祉総務事務経費	673,920円



「チャレンジ」の先にあるもの

平戸のまちを元気に

平戸瀬戸市場では、店舗で鮮魚を購入したお客さんに、切り身にして提供するサービスを行っています。平成27年度からは、ふるさと納税で注文があった鮮魚についても、同様のサービスを始めました。

この日も、全国の寄附者から注文があった特産品の準備で大忙しで、近くの箱には、とり分けられた鮮魚が並べられていました。今、まちの事業者は新たなサービスや特産品などでまちを元気にしようと、さまざまな取り組みを行っています。



スイーツを通して
市内外の皆さんに
心優しいひとときを

主婦の挑戦

移住者の挑戦



自分が惚れた平戸
都会にない魅力を
来た人に伝える



心優スイーツ
おちか 小値賀 布美華さん
ふみか (津吉町)

創業支援事業のメニューで創業セミナーや個別相談会などを活用し、津吉町にお菓子店「心優(ことゆ)スイーツ」を平成28年3月末にオープンしました。開店当日は、用意していたスイーツが30分で完売になるほどの人気でした。また、店内にはカフェスペースもあり、地域の人たちの憩いの場としても、大変喜ばれています。

みんなが喜ぶ顔が見たくて
昔から趣味でスイーツ作りをしていて知り合いにおすそ分けしていたのですが、食べた人から「とてもおいしかったから、また作ってよ」と要望され、「自分でもスイーツで、心優しいひとときを与えることができる」と思い本格的にやってみようと思いました。また、親になり故郷のすばらしさを子どもたちに残していくため、自分でできることをやろうと決意しました。少子高齢化が進む現状を肌で感じ、実際に新聞などでデータを目の当たりにした時に、その思いはさらに強くなりました。

やるからには堅実に
家族の理解もあり、順調に
準備を進めていくことができた。準備をすすめる中で、市の広報紙で創業支援事業の記事を見て、今後、より堅実に事業運営ができるようにと思い、補助金やセミナーなども活用しました。SNSやブログを活用して、市外の人の顧客獲得のため情報発信に重点をおき、オープン以前から情報発信に取り組みんでいたことで、オープン後は、市外だけでなく、ブログなどを見た地元のお客さんも来店され、連日にぎわっています。健康志向にもこだわって、平戸産の食材を中心に使っています。

スイーツを市外の人たちへ
これからは、当初から計画していた市外への販売に向けて、ネット通販の準備を進めていきます。ある人から「平戸は日本のガラパゴス」と言われたことがありました。確かに、平戸には素晴らしいものや魅力がある人がたくさんいますが、それを全国の皆さんはあまりよく知りません。そんな平戸の魅力を、スイーツを通して伝えていき、その人たちが平戸に興味をもって来てもらえるよう平戸の魅力をスイーツと一緒に情報発信していきたいと思っています。



ネット通販に向けて、パッケージのデザインにもこだわり、プロのデザイナーに依頼するなど「おしゃれな物への関心が高い人」への情報発信にも力をいれていきます。



ヒラドゲストハウスコトノハ
いしくろ まさとし
石黒 雅俊さん
(崎方町)

移住定住環境整備事業のメニューの1つである、お試し住宅「平戸暮らし体験家屋」を利用して、平成28年3月に愛知県から平戸市へ移住してきました。現在、大工の経験を生かして崎方町にある空き店舗を自分でリフォームして、ゲストハウス「ヒラドゲストハウスコトノハ」を9月にオープンするために、奮闘中だそうです。

平戸が忘れられなくて
平戸については、知り合いから常々いいところという話を聞いていました。もともと旅がライフワークで、西の端という立地にも興味があり、平成27年2月にその知り合いと「あら鍋」を食べに平戸に来たことがきっかけでした。その時に食べた平戸の食に魅了されて、その後、愛知に帰ったのですが、平戸で食べた物が忘れられず、2カ月後には平戸に移住しようという決断しました。

平戸で暮らし
平戸に移住して、たくさんのコトやヒトとの体験や交流ができました。同世代の若者と一緒にイベントをしたり、以前から大工をやっていたの
ふるさと納税のおかげで、平戸暮らし体験家屋を利用させてもらい、平戸に移住する前に十分な準備ができました。おかげで、移住後の手続きや地元の人たちとの交流もスムーズに進めることができました。今では知り合いも増え、改めて平戸の良さを認識することができました。



タイニーハウス(小さな家)とは、小さな空間で、自分が生活するために必要な物だけを準備することで、無駄な物や時間を省いて、自由に使えるお金や時間をもつことができるという考えで、近年欧米などでは人気となっています。

ゲストハウスで平戸の魅力を伝える
いろいろなところから注文がきたりと、田舎だけど充実した毎日を送っています。自分の性格がマイペースなので、平戸の環境があっているのかもしれないですね。ゲストハウスオープン後は、自分が興味があるタイニーハウス(小さな家)の建設にも取り組みたいと思っています。

これからは、微力ながら惚れた平戸の魅力を地元の皆さんと一緒に、発信していきたいと思っています。平戸では当たり前前と違って、私にはすごく魅力的に感じることがたくさんあります。平戸の魅力はその土地に来てみないとわからないと思います。ゲストハウスが完成したら、地元の皆さんもお越しくださいます。平戸の魅力をみんなで語り合いたいです。



漁師の挑戦

平戸の海の幸(タコ)を
おいしく消費者に

漁師が加工・販売!

事業者の挑戦



平戸にしかない特産品を
開発して全国に誇れる
平戸ブランドへ



めぐみ屋

たなか きよみ
田中 清美さん
(小田町)

家業が、タコツボ漁を主に営んでおり、平戸で水揚げされたタコは、佐世保魚市場へ「メグミダコ」として出荷されています。

しかし、魚市場へ出荷できないタコもあり、それを活用して加工品などを開発し販売しました。平成27、28年平戸市ふるさと納税カタログパンフレットの中で「ご多幸うセット」などを掲載しています。

漁師は、昔は漁獲量がたくさんあり魚価も高かったのですが、漁だけをしていても生活はできていました。しかし、今は漁獲量の減少や魚価の低迷などで漁だけでは生活も少しずつ厳しくなってきました。このままだと自分たちだけでなく、平戸の漁師も活気がなくなってしまうのではと思いついて、盛り上げていきたいと考えていました。

もともと、何かやりたいなという気持ちはありましたので、まずは自分でできることから始めようと思い、魚市場に出せないタコなどを加工・販売しておいしく消費者に食べてもらえるようになれば、漁師の収入を少しでも増やしていけると思い「めぐみ屋」を開業しました。

漁師と消費者を結ぶ

ふるさと納税や6次産業化のおかげで、平戸のタコの人気もあり、漁師の収入も少しずつ増えてきました。

これからは、タコを使った別の新商品なども開発して、「平戸のタコ」をもっと全国にPRしていきたいと思っています。催事やイベントにも今まではあまり参加することはありませんでしたが、これからは意欲的に参加して、いろんな消費者からの意見を取り入れていきたいと思っています。そして、その意見をこれからの販売や加工にも生かしていきたいと思っています。



平戸の海産物で初となる「6次化認定商品」獲れたてのタコを丁寧に手もみし、茹でることタコ本来の味が際立つ。燻製にしてオリーブオイルや醤油などで味づけした商品は、大人の味に仕上がって大人気です。

平戸の漁師を元気に

平戸初の6次産業化

めぐみ屋で加工品から販売までを始めたことで、家業の幅も広がり収入も増え、機械なども揃えることができ、作業効率も上がりました。また、生産から販売までを一手に行つたことで、平戸の海産物では初となる「6次化認定商品」を取得できました。

おかげで、普段は1人で作業をしています。注文が増えて忙しくなると長男夫婦も手伝ってくれるようになり、家族の関係も良好になりました。

平戸の強みを発掘

新商品開発のきっかけは、平戸市ふるさと納税の返礼品のカタログギフトに参入したことでした。参入後は、市場調査や情報収集で寄附者が何を求めているかや、平戸の強みとして何が最も人気があるのかなどを分析しました。その中で、うちわえびが最も人気があるということに着目しました。

うちわえびは、一般に活魚としては流通していません。しかし、それ以外で用途がなく、売り物にならないため、加工品などでも活用できないかと考えました。地元の漁師と話し合いを重ね、うちわえびを加工して出汁に使ったラーメンを新たな商品として開発しました。観光客や帰省客にも、平戸のお土産品として、うち



(有)松永水産

まつなが かずお
松永 和生さん
(野子町)

「おうごんふぐ」・「おうごんひらめ」・「おうごんうなぎ」など、商標登録を行い、養殖魚の生産に取り組んでいます。特に、「おうごんうなぎ」については、全国的にも珍しい海水を使った養殖を行っています。平成28年度版平戸市ふるさと納税カタログパンフレットの中で「おうごんふぐ」・「おうごんうなぎ(期間限定)」などを掲載しています。

わえびラーメンを購入してもらえよう、パッケージにもこだわりました。また、観光客や地元の人たちに、うちわえびなどを気軽に食べてもらえるような場所も必要と思い、観光客などの通りが多い場所に店舗も開店しました。



平戸うちわえびラーメン

ブランド価値を高める

ふるさと納税のおかげで、平戸の新たな特産品などを開発することができました。また、平戸の特産品をたくさんの人に提供できる店舗も整備することができました。テラ

ス席もあり、バーベキューなども楽しめますので、ぜひご利用ください。(予約制)

これからは、ご当地ブランドとして、特産品をPRしたり、新たな商品開発などにも取り組んでいきたいと思っています。また、市民の皆さんや平戸に来た皆さんに、平戸の食を十分に堪能できるように、店舗での提供メニューを増やしていきたいと思っていますので、平戸にお越しの際には、お立ち寄りください。



空き店舗等活用促進事業を活用して、平成28年3月、浦の町に「平戸海老」をオープン。今後は、土用丑の日に向けて、国産うなぎに平戸秘伝のたれを使った蒲焼きなどを販売予定です。

平成28年度 ふるさと納税の使い道

取り組みや思いを寄附者に

これからは、寄附者の皆さんが応援したくなる自治体を目指してふるさと納税の使い道をPRしていきます。

返礼品よりも、寄附して良かったと思われる活用方法を市民と一緒に取り組みながら、平戸を活性化していきます。

輝く人づくりプロジェクト

84,242千円

「まちづくりの基本は人づくり」という認識のもと、各種活動などを通して、地域のリーダーとなる人材やさまざまな分野における人材の確保と育成を図り、市民がともに支えあい温かみのあるまちの実現を目指します。

宝を磨き活かすプロジェクト

107,557千円

本市の個性ある民俗・伝統文化・芸能・祭り、歴史資産や豊かな自然、都市景観、農林水産品などの豊富な地域資源を、地域の「宝」へ磨きあげ、観光や産業振興に活かすことにより、地域の活性化や交流人口の拡大を目指します。

ずっと住みたいまち創出プロジェクト

357,782千円

平戸市総合戦略の「雇用の促進」「産業の振興」「子育て支援」「定住・移住の促進」を基本目標に、地場産業の振興や企業誘致、新たな雇用の創出を図るとともに、子育て支援の充実による若年層の人口流出の抑制やU・Iターンの促進を図り、市民が地域に「ずっと住みたい」と思えるまちの創出を目指します。

全国の寄附者へ送る

平戸のお礼の品には

まちの思いも詰めています



まちの活気を更なる飛躍へ

～平戸市の挑戦～



◆平戸新鮮市場では、この日約1,500箱の返礼品の梱包をしていました。「この品が届いた時に、少しでも平戸のことを気に入ってもらえたら」と一つ一つ丁寧に並べ方や向きなどを確認しながら作業していました。その言葉には、平戸を良くしていきたいという思いが感じられました。ふるさと納税の返礼品だけではなく、その返礼品に込めた平戸の思いを、生産者も事業者も一緒になって寄附者にお届けしています。

官民一体となって展開

市では、これからふるさと納税による返礼品での流通よりも、一般市場における特産品の流通を拡大したいと考え、9月に市公認の通販サイト（仮称）ひらどマルシェの開設を予定しています。

返礼品のノウハウを活かして、一般市場に参入し、個々の力だけではなく、官民一体となって平戸市の総力をあげた「オール平戸」の取り組みを展開していきます。

最後に

2014年に開催された、日本創成会議の中で、2040年に地方が消滅（破綻）する可能性があるとして、全国の市区町村が公表されましたが、その中に平戸市も含まれていました。このままだと、平戸は衰退して消滅するという推測が示されました。

日本の人口は、少子高齢化により減少傾向にあります。それに加えて若者の都市部への流出により、地方の人口減少は、より加速していきます。平戸市も同様です。

この現状を打開するためには、まずは自分のおかれている状況を把握し、将来の平戸のために何がやれるのだろうか、「誰かがやるだろうか」自分には関係ない。自分には無理」と

あきらめるより、「自分が今しかできない。今やるべき時」というチャレンジしていく気持ちが必要ではないかと思えます。

今回、取材した4人も、いろいろな業種において、まずは自分のおかれている状況を理解し、そこから自分のできる新しいことにチャレンジし、未来の平戸を少しでも良くしていきたいという気持ちを共通して持っていました。平戸市も、これからこのようなチャレンジ精神をもった人たちが、その思いをかたちにすることができるよう、一緒になって取り組んでいきます。

平戸の明るい未来を信じて。